

みどりの散歩道

2026年3月
第7号

TOPICS 集めた落ち葉はどこへ？ 活用事例をご紹介します

12月6日(土)に落ち葉で物々交換会が実施されました。多くの方々に落ち葉をご持参いただき、たくさんの落ち葉が集まりました。ご協力ありがとうございました。今号では、落ち葉がその後どのように活用されるかについてご紹介します。

落ち葉のゆくえ① 踏み込み温床

踏み込み温床とは、落ち葉や米ぬかなどの有機物が微生物によって分解される「発酵熱」を利用して、寒い時期に夏野菜（ナス、トマトなど）の苗を育てるためのエコな育苗方法です。電気を使わず、仕込み後は約1ヶ月以上25～30℃の温度が持続し、使った後の落ち葉は良質な腐葉土（堆肥）として再利用できる、昔ながらの知恵と循環型農業技術です。また、「さつま床」という言葉があるように、江戸時代に飢饉対策として関東地方で栽培が広まったサツマイモは、踏み込み温床で育苗する代表的な野菜です。今や若者や外国人観光客に人気のおしゃれスイーツとしても有名な川越芋も、その一つです。

男衾地区の皆農塾では、この踏み込み温床を使って野菜の育苗を行います。その後腐葉土は土作りに活用されます。今回の「落ち葉で物々交換会」でその味を実感した方もいらっしゃると思いますが、安心・安全でおいしい有機野菜の生産を行っていらっしゃいます。



▲竹を組み、ぐるっと周りを藁で囲う。そこへ落ち葉、藁、ぬか、鶏糞、水を順に入れていく。再び、落ち葉、藁…とミルフィーユ状に重ねていく。この一連の作業によって、発酵のスイッチを一気に入れる。



▲発酵が始まると、温床の温度はなんと60℃前後まで上がる。それから徐々に25～30℃ほどまで下がり、その後はその温かさを保ち、約一か月緩やかに発酵が進む。この中で野菜苗がすくすくと育つ。

落ち葉のゆくえ② 庭づくり・苗木生産

代表理事（押田）の経営する中央園芸では、庭づくりや苗木生産に落ち葉を活用しています。庭づくりでは、土と一緒に混ぜ込んでいきます。苗木生産では、ポットの中に落ち葉を入れてそのまま植え込みます。落ち葉を混ぜ込むことで、植物が健康に育っていくからです。



▲落ち葉の最初の分解者は、ミミズなどの土壌生物。ミミズが食べることによって、落ち葉は細かく小さくされる。



▲白いモヤモヤとしたものは、菌類が落ち葉を分解する過程で出す菌糸。菌糸は、根に栄養分を供給したり、土を良くしたりする。



▲根張りが非常に良く、元気な苗木が育っている。縦横無尽に張り巡らされた根に、落ち葉も土も抱き込まれて、一つの塊のよう。栄養分たっぷりの土に苗木も喜んでいように見える。

自然界の落ち葉の役割

ハイキングに行って、森の匂いを感じたことはありませんか？木々が発する香り（フィトンチッド）です。「爽やか・清々しい木の香り」と言われます。また、落ち葉や落枝が微生物によって分解される過程で生まれる香りもあります。これは、「森の中の土の匂い」「深みのある木の香り」「ふかふかした土の匂い」などと言われます。堆積した落ち葉は、分解される過程で、地面に固定され、風が吹いても簡単に飛ばされない層になります。ふんわりとした落ち葉の層は、クッションのように、雨粒を受け止め、土の流出を防ぎます。

緑の会の管理作業では、街路樹の植栽マス（街路樹が植えられているスペース）の土をふわっと覆うように腐葉土を上から掛けます。腐葉土で土を覆うことで、土を地表の寒さから守り、乾燥を防いでいます。森の中の環境に近づけるようにしています。落ち葉からできた腐葉土は、街路樹や土の中の生き物を元気にしてくれています。

街と里山地域との「人と資源」の循環を目指して

今後も緑の会では、落ち葉で物々交換会などのイベントを通して、落ち葉（資源）の循環と、人々の交流を盛んにしていきたいと思えます。



ジュンベリー (バラ科ザイフリボク属)

新緑と赤い実、紅葉も美しい。
春の白い花は6月頃熟し、赤い実は甘く食用になる。
都会の暑さにもよく順応し、庭木としても人気が高い。



管理作業に参加しませんか？

今後の管理作業予定日

3/21^土 | 4/16^木 | 5/21^木 | 6/20^土

集合時間：13：30

予約：不要

集合場所：Yotteco

作業時間：1時間程度

持ち物

作業手袋、剪定バサミ、のこがま、汚れても良い服装、帽子、飲み物

みどりの リレーコラム

Contributor



寄居の緑と空間を楽しむ会

岩附 弥生さん

小川町に家を建てることをきっかけに中央園芸さんの水脈作りや植栽の考え方や技術に出会えたことが、私の喜びの始まりでした。

U字溝や川の両岸がコンクリートで覆われている姿に見慣れてしまい、ほとんど疑問を持たなかった時期が長かったですが、時々聞こえてくる「大地が呼吸できなくなっている」とか「川の流れを人間の都合で変えたから洪水になる」という話も気になっていました。

そんな時間を経て、「大地の再生」の考え方や技術に触れる機会を頂き、自然が人知れず営んでいた豊かな循環への驚きと感動が広がっていきました。

傷ついた自然も水と空気と有機物で回復できる、人の体も自分の持っている免疫力で回復できる、雑草として軽んじられている植物にも人の体を回復させてくれる力がある、森林の中にいるだけで元気になっていく…「全ては用意されていた」ということをもう一度見直しているここ数年です。

今、街路樹管理で微々たるお手伝いをさせて頂けることは、私にとって本当に幸せです。「街路樹は道路の付属物という立ち位置だが、本来はそんなものではない。街路樹の北側の鐘撞堂山から南側の荒川をつなぐ水脈を造るのがコンセプト。つなぐのは木の根っこ」

そんな押田さんの壮大な計画の元、皆さんと共に街路樹の手入れをしながら教えて頂けることは豊かさがいっぱいです。ラウンドアバウトを「ナチュラルスティックガーデン」にするということで新たな発想や楽しみにも出会うことができました。

地球が喜ぶ「大地の再生」が日本各地で行われています。点と点がつながって日本の大地が再生していくとしたらこれ以上の喜びはありません。その点の一つが寄居町にあることは素晴らしいことだと思っています。いつもありがとうございます。

